



## 長倉の蒼泉寺

南嶽山蒼泉寺は、御前山地域長倉にある曹洞宗（禅宗）のお寺です。佐竹氏一族・長倉氏の居城であった長倉城跡の一郭にあります。

### 蒼泉寺の来歴

元々この地には、長倉氏が先祖の菩提を弔うために建立した善慶寺がありましたが、文禄4年（1595）、長倉城主・義興が柿岡（現在の石岡市柿岡）へ移封することに伴い、善慶寺も柿岡に移りました。ちなみに、善慶寺には長倉氏に伝来したとされる雪村周継筆の「釈迦羅漢図」3幅が所蔵されており、県指定文化財となっています。

翌慶長元年（1596）、義興によって善慶寺の跡地に創建されたのが蒼泉寺です。相模国小田原（現在の神奈川県小田原市）の海蔵寺を開山した安叟宗楞和尚を勧請開山とし、聖観世音菩薩を本尊としました。

蒼泉寺は、万治元年（1658）と文化3年（1806）の2度にわたり火災に遭っています。現在の堂宇は文化8年（1811）に再建されたものを、平成2年に改修したものです。



▲蒼泉寺本堂

### 蒼泉寺の文化財

蒼泉寺には多くの文化財が伝わっており、そのうちの4件が市指定文化財となっています。1つ目は、本堂内の板戸に花鳥や山水を描いた、全34面22枚の彩色画・水墨画です。板戸は現在でも本堂内の戸襖として使用されています。この板戸絵の作者は、江戸後期の喜連川藩（現在の栃木県さくら市）絵師で、狩野派の画家・津村雨林（1774～1832）です。名を基則といい、南画の技法を墨守しました。同郷で南画の大家となっ

た高久靄厓は「下野では喜連川の津村基則、黒羽の小泉斐などが名手」であると雨林を評していますが、その遺作は極めて少なく、貴重なものとなっています。



▲板戸絵

2つ目は、同じく雨林作である格天井の彩色画です。格天井は天井の裏板に格子を組んだもので、一枱ごとの裏板112面に花鳥があざやかに描かれており、華やかな雰囲気があります。「文政六癸未五月吉日」の銘があることから、1823年に制作されたことがわかります。



▲格天井の絵画

3つ目は、軸物の釈迦涅槃図です。文化9年（1812）、藤原信近によって描かれました。縦364cm、横212cmの大きな絵画で、昭和63年（1988）10月から平成元年9月にかけて修復されました。涅槃図は、釈迦が沙羅双樹の下に横たわり入滅する情景を描いたもので、釈迦が亡くなった日とされる2月15日に開かれる涅槃会に掲げられます。同じく市指定文化財となっている、野田地区長源寺の釈迦涅槃図については、ふるさと見て歩き第62回に詳しく載っています。

このほかにも、市指定文化財である欄間の彫刻や、薬師堂、結城朝道（寅寿）のお墓など、蒼泉寺には見どころがたくさんあります。新型コロナウイルスの影響が落ち着いた頃には、ぜひ訪れてみてください。

### 【参考文献】

御前山村郷土誌編纂委員会『御前山村郷土誌』御前山村、1990年  
栃木県歴史人物事典編纂委員会『栃木県歴史人物事典』下野新聞社、1995年